

CSRの取組み

企業の社会的責任(CSR)	59
グループCSR重点課題	59
「SDGs(エスディーゼズ)持続可能な開発目標」達成へ向けた取組み	60
SDGs達成へ寄与する取組み事例	60
CSRの取組み	61

CSRの取組み

企業の社会的責任(CSR)

当社では、環境・健康・医療等の社会的課題に対して本業の強みを活かしつつ、ステークホルダーとの積極的な対話を通じて、企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献します。

SOMPOホールディングスグループでは、「グループCSRビジョン」に基づき、グループの目指す「安心・安全・健康のテーマパーク」への進化において、社会的課題への配慮を組み込み、新たな価値を創造することで、レジリエントで持続可能な社会とグループの成長の実現を目指しています。

グループCSRビジョン

SOMPOホールディングスグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、高い倫理観のもと国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業プロセスに積極的に組み込むとともに、社会に対して透明性の高い情報を積極的かつ公正に開示していきます。また、常に一歩先を見据えて、社会の安心・安全・健康に資する商品・サービスの提供をすることで、ソリューションプロバイダーとしてレジリエントで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

グループCSR重点課題

SOMPOホールディングスグループでは、2015年に国連が定めた「持続可能な開発のための目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」などの国際社会の動向などをふまえて、グループCSR重点課題を見直しました。「安心・安全・健康に資する最高品質のサービスの提供を通じてレジリエントで持続可能な社会に貢献する」というCSRビジョンに基づき、グループが取り組むべき5つの重点課題を特定しました。また、重点課題に取り組むにあたって、グループの強みを活かした取組みを推進するために、3つの重点アプローチを定めました。

5つの重点課題

1 防災・減災への取組み

防災・減災に資する商品・サービスなどの提供やさまざまな組織との協働プロジェクトを展開し、人々が安心・安全に暮らせる社会の実現に貢献している。

2 健康・福祉への貢献

質の高い介護・ヘルスケアサービスなどの提供や健康・福祉の増進に資するプロジェクトを展開し、あらゆる人々がよりよく生活できる社会の実現に貢献している。

3 地球環境問題への対応

気候変動への適応と緩和、生物多様性の保全などにバリューチェーンで対応し、新しいソリューションを提供することで、持続可能な社会の実現に貢献している。

4 よりよいコミュニティ・社会づくり

社会貢献活動や地域の文化振興に資する活動などを通じ、ステークホルダーからもっとも信頼される企業グループとして、よりよいコミュニティ・社会の実現に貢献している。

5 ダイバーシティの推進・啓発

基本的人権を尊重し、多様な個性を認め、ダイバーシティを推進することで、社員を含めたステークホルダーが活躍できる社会の実現に貢献している。

目指す姿

3つの重点アプローチ

- 1 金融機能やデジタル技術などを活かした革新的な商品・サービスの提供
- 2 人材育成を意識したNPO/NGOなどをはじめとするさまざまなステークホルダーとの連携
- 3 継続的に支援し、培ってきた文化・芸術を通じた取組み

「SDGs(エスディーゼース)持続可能な開発目標」達成へ向けた取組み

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月、国連サミットにおいて採択された、2030年までに世界で達成すべき17の社会的課題に対する目標です。公式合意文書の第67段落では、「創造性とイノベーションを持つ企業の参画を要請する」と明記されるなど、SDGs 達成において企業の役割が期待されています。



SDGs達成へ寄与する取組み事例

SOMPOホールディングスグループでは、SDGs 達成に向けてさまざまな取組みを実施しています。次ページより当社の取組みを紹介します。

5つの重点課題	SDGsへの主な貢献
①防災・減災への取組み	3 すべての人に健康と福祉を, 11 住み続けられるまちづくりを, 13 気候変動に具体的な対策を
②健康・福祉への貢献	1 貧困をなくそう, 3 すべての人に健康と福祉を
③地球環境問題への対応	17 パートナーシップで目標を達成しよう, 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 13 気候変動に具体的な対策を, 15 陸の豊かさも守ろう
④よりよいコミュニティ・社会づくり	4 質の高い教育をみんなに, 9 産業と技術革新の基盤をつくろう, 12 つくる責任 つかう責任, 16 平和と公正をすべての人に
⑤ダイバーシティの推進・啓発	5 ジェンダー平等を実現しよう, 8 働きがいも経済成長も, 10 人や国の不平等をなくそう

CSRの取組み

重点課題1 防災・減災への取組み

ISO39001 (道路交通安全マネジメントシステム)の取得

交通事故による死者数は全世界で毎年130万人以上、負傷者数は5,000万人以上とされています。この状況のもと、国連が「道路交通安全10カ年行動計画(2011～2020)」を策定するなど、道路交通安全に関する取組みが国際的に注目されています。ISO39001(道路交通安全マネジメントシステム)は交通事故による死者や重大な負傷者を減らすことを目的に、道路交通安全のためにさまざまな組織が取り組むべきマネジメントシステムの要求事項

を定めたものです。当社では2018年3月にISO39001を取得し、社有車の無事故・無違反に取り組むセーフティドライブコンテストを実施するなど、道路交通安全への取組みを積極的に行っています。



重点課題2 健康・福祉への貢献

わたらしい「健康」をサポートする「リンククロス」ブランド

「リンククロス」とは、2016年9月に立ち上げた健康サービスブランドです。健康に関するアプリや商品を提供し、“いざというときに保険金をお支払いする”だけでなく、

“病気になるように支援する”などお客さまと一生涯つながり、お客さまの健康維持・増進を後押しすることを目指しています。



私の健康を支える情報アプリ
リンククロス シル



ふたりだから続けられるダイエットアプリ
リンククロス レコ



いつもの道が楽しくなるお散歩アプリ
リンククロス アルク



「リンククロス コインズ」販売による寄付

2016年9月に発売した、月々500円の保険料で加入できるネット専用商品「リンククロス コインズ(正式名称:臓器移植医療給付金付先進医療保険)」は、2017年12月、販売件数が15,000件を突破したことに伴い、公益社団法人日本臓器移植ネットワークならびに一般社団法人メディポリス医学研究所に計600万円の寄付を行いました。CSRの取組みとして、高額な費用がかかる医療技術を

誰もが受けることのできる社会を目指し、契約件数に応じて、先進医療や臓器移植に関連する医療機関や普及団体への寄付を行っています。



2017グリーンリボン ランニング フェスティバルへの協賛

当社は、臓器移植・先進医療といった経済的に負担の大きい保障に特化した保険「リンククロス コインズ(臓器移植医療給付金付先進医療保険)」を販売しています。当社は、移植医療の啓蒙活動の支援と、スポーツを通じて健康について考えるきっかけとなることを目指す「2017グリーンリボン ランニング フェスティバル」に賛同し、協賛しました。10月9日、駒沢オリンピック公園陸上競技場で行われた本イベントには、当社社員61名がリレーに参加したほか、健康サービスブランド「リンククロス」のPRのためにブースを出展、会場内を盛り上げました。今後も当社は移植医療の啓蒙活動を支援してまいります。



つながる
SDGs



「認知症サポーター養成講座」の開催

高齢化が進むなか、認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族へ適切な対応を行うことは、お客さまへのサービスの品質向上およびよりよい社会の実現につながると考えています。2017年度は254名の社員が「認知症サポーター養成講座」に参加し、認知症への理解を深めました。

※認知症サポーターとは厚生労働省が推奨する事業で、講座を通じて、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方や家族を温かく支援することを目的としています。



つながる
SDGs



日本赤十字社「献血」への協力

日本赤十字社を通して輸血を必要としている方々に血液を届けるため、2014年から本社ビルで献血イベントを開催しています。2017年度は社員の希望により年2回実施し、のべ131名の社員が献血に参加しました。献血された血液は、けがの治療で使用される輸血用血液製剤や、がんや白血病、再生不良性貧血などの治療のために使用されます。



つながる
SDGs



新宿福祉作業所によるパンの販売

本社ビルにて、月に一度、近隣にある新宿福祉作業所が製造したパンの販売を行っています。

新宿福祉作業所は障がい者の就労支援施設で、主に知的障がいを持つ方々が日々いろいろな作業を行いながら、地域社会に参加しています。障がい者の方が、自分たちで製造したパンを自分たちで販売することにより、外部の人と触れ合う有意義な経験となっています。毎月必ず3つは新作パンを出すなど、工夫を凝らした焼き立てパンが10種類ほど並びほか、当社のキャラクター“ポンポン”の焼印が入った蒸しパンも販売しています。毎回販売開始前から社員が列を作り、短時間で完売するほどの人気です。



つながる
SDGs



骨髄・末梢血幹細胞のドナーへのサポート

当社は骨髄・末梢血幹細胞の提供者(ドナー)に対して手術給付金をお支払いしています。

白血病などに対する有効な治療方法として、骨髄・末梢血幹細胞移植があります。しかしながら、同移植を受けるには、骨髄・末梢血幹細胞のドナーと白血球の型が一致しなければならず、一致する確率は非血縁者では数百から数万分の1、兄弟姉妹でも4分の1程度と低いものとなっています。そのため、今後も積極的なドナー登録が望まれています。

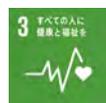
一方、骨髄・末梢血幹細胞を提供するには、「精神的な負担」(家族の説得・手術への不安等)・「経済的な負担」(入院にともなう休業損失)・「身体的な負担」(手術のリスク)等があり、こうした負担もあってドナー登録が進まないとも言われています。例えば「経済的負担」に関しては、ドナーの方の入院費用は受容者側(移植を受ける人)の保険で対応しますので、ドナー側に負担は生じません。しかしながら、骨髄・末梢血幹細胞の採取には入院が必要で、この入院のために仕事を休んだ場合の休業損失、ホームヘルパー代等の間接費用はドナーの方の負担となります。

そこで、被保険者が骨髄幹細胞または末梢血幹細胞の採取術を受けた場合に、医療保険等において所定の手術給付金をお支払い※することで、ドナーの方の「経済的負担」を軽減し、当社商品を通じてドナー登録者の支援ができるようにしました。この手術給付金は、新規のお客さまだけでなく、すでにご契約いただいているお客さまにも保険料の変更なく適用されます。

当社は、ドナーの経済的な負担を軽減することで、さらなるドナー登録者数の増加に貢献するとともに、「社会に貢献したい」というお客さまの思いをサポートしていきたいと考えています。

※骨髄幹細胞または末梢血幹細胞の採取術による手術給付金のお支払いの対象となるのは、責任開始日(または復活日)から起算して1年経過後の採取術です。また、手術給付金のお支払いは骨髄幹細胞の採取術と末梢血幹細胞の採取術を通算して1回を限度とします。

つながる
SDGs



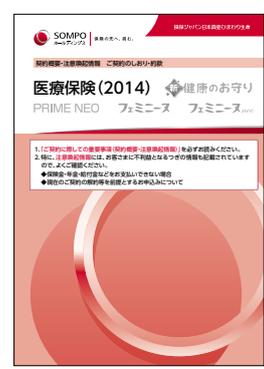


重点課題3 地球環境問題への対応

CD-ROM版「ご契約のしおり・約款」の提供

当社では、CD-ROM版の「ご契約のしおり・約款」を導入し、紙使用量の削減、環境への配慮に加えて、お客さまの利便性向上に取り組んでいます。

CD-ROM版の「ご契約のしおり・約款」は、①全文検索機能、②付箋貼り付け機能、③メモ機能、④拡大・縮小表示機能などがあるデジタルブックの形式で収録しました。また、お客さまの視点に立ち、わかりやすさ、使いやすさを考慮した結果、実際にはご契約していない複数の商品を収録するのではなく、商品ごとにCD-ROMを分けてご提供しています。



重点課題4 よりよいコミュニティ・社会づくり

みんなのひまわりプロジェクト

種にさわる。土をいじる。水をあげる。たったこれだけでも、ひまわりを育てることは、子どもたちに新しい体験と笑顔をもたらしてくれます。そして、その笑顔を見守る大人たちにも、笑顔の輪を広げていきたい。当社は、笑顔の象徴としてひまわりの花をテーマに、2012年から「みんなのひまわりプロジェクト」を展開し、昨年は34校の小学校にひまわりの種を配付し、ひまわりを育てる授業を実施しました。



「親守詩」の普及支援

親守詩(おやもりうた)とは、「親への感謝の気持ち」と「子どもへの親心」を親子が共同で一つのうた(短歌など)にしたものです。親守詩の活動は、子から親へ「感謝の気持ち」や「愛情」をことばで表すことを通して子どもと親が自らを振り返り、「親子の絆」を深め、より良い親子関係を構築するとともに、子どもがこれからの生き方を考える絶好の機会になればと考え始めたものです。当社は「親守詩全国大会」へ協賛するとともに、親守詩の普及支援を行っています。



つながる
SDGs



子ども向けに「お金の大切さを教える授業」を実施

中期経営計画(P.11)の実現に向け、社内企画コンペを実施し、「小中学校への『健康』と『お金』に関する授業開催の支援」が最優秀賞に選ばれました。受賞者の社員を中心に、2017年8月に新宿高島屋にて親子を対象にしたワークショップ、2018年3月には東京都北区立王子第五小学校にて授業を行い、お金の便利さ、生命保険の役割を子どもたちに伝えました。持続可能な社会の実現に向けた人づくり、教育に貢献しています。



つながる
SDGs



重点課題5 ダイバーシティの推進・啓発

女性活躍推進

当社では、2016年度からスタートした中期経営計画において、『健康応援企業』への変革を目指し、『健康経営』『働き方改革』とならび、『ダイバーシティ』を重要な経営戦略として位置づけています。ダイバーシティを企業風土として定着させるために、女性管理職比率を2020年度までに30%まで引き上げることを目指しており、「女性管理職育成プログラム」を実施しています。2018年3月にスタートした、乳がんの早期発見から罹患後までトータルサポートを行う、女性に特化した新サービス「リンククロス ピンク」は女性社員の声から誕生した企画で、メンバーも女性社員中心で構成されています。



つながる
SDGs

